

2016年4月7日

日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、輸出・生産面に新興国経済の減速の影響がみられるものの、緩やかに回復している。

すなわち、設備投資は、増加している。個人消費は、一部で改善の動きに鈍さがみられるものの、全体としては堅調に推移しているほか、住宅投資は、持ち直しつつある。輸出は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、減少している。こうしたもとで、生産は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。この間、在庫はやや高めの水準となっている。雇用・所得環境をみると、雇用者数が増加する中で雇用者所得も一段と改善している。こうした中、企業の業況感は、製造業を中心に悪化している。

先行きについては、海外経済や金融市場の動向などに注視が必要である。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、減少している。

輸出は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。

設備投資は、増加している。

個人消費は、一部で改善の動きに鈍さがみられるものの、雇用・所得環境などが改善するもとで、全体としては堅調に推移している。

百貨店販売額は、高額品販売や訪日外国人向けの販売の増加などにも支えられて堅調に推移しているほか、外食売上高も堅調に推移している。また、スーパー販売額は改善の動きが続いている。一方、乗用車販売、家電販売額は、底打ちしたとみられるものの、改善の動きに鈍さがみられている。この間、旅行取扱額は、国内外ともに前年を下回っている。

住宅投資は、持ち直しつつある。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。この間、在庫はやや高めの水準となっている。

生産を業種別にみると、電子部品・デバイスや輸送機械が減少しているものの、はん用・生産用・業務用機械やインバウンド需要が好調な化学は増加している。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、労働需給が改善を続けるもとで、雇用者所得は一段と改善している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、小幅のプラスとなっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、法人預金を中心に増加している。

貸出残高は、企業向けや住宅ローンの増加などを背景に前年を上回っている。

預金金利は、引き下げの動きがみられている。

貸出金利は、小幅ながら低下している。

以 上